

ずっと一緒に笑っていたい。ただ、それだけ。

石川瑠華

中島瑠菜 倉田萌衣 佐々木悠華 松宮 倫 八条院蔵人 しゅはまはるみ

伊藤亜里子 川瀬知佐子 山本 杏 森川千凜 倉林希和里 小西有也 野島透也 池上秀治

監督：安井祥二

エグゼクティブプロデューサー：King Gnu プロデューサー：亀山暢央、上原三由樹 脚本：上原三由樹、岳谷麻日子 助監督：福田良夫

撮影：平野晋吾 照明：笠井拓児 録音：安光雪江 ヘアメイク：須見有樹子 衣装：村上久美子 制作：塩野谷 明、濱本敏治 制作助手：浅井美智恵、高石かれん

水中カメラ：星野耕作 ポスターズチール：福田ジン 編集：宮脇結花、進 巧一 カラリスト：齊藤一徳 整音・MA：吉方淳二 音楽：おごのあきこ 題字・宣伝美術：木下芳夫

企画：上原三由樹、安井祥二 劇場営業：田村魁成 配給：MomentumLabo. 衣装協力：晋公学生服株式会社

製作：株式会社 basil、株式会社より 2024年 / 日本 / 74分 / 2.35:1 / カラー

“普通”とは何か、“自分らしさ”とは何か。
ひと夏のまぶしさの中で、自分だけの答えを探す物語。

Introduction

自分は、女なのか、男なのか。

この気持ちは、恋なのか、友情なのか。

揺れ動く10代の心を、瑞々しい映像とともに描いた、ひと夏の物語が誕生した。

主人公・葵を演じたのは、「猿楽町で会いましょう」で第31回日本映画批評家大賞・新人女優賞受賞を果たし、

『うみべの女の子』など数々の作品で主演を務める実力派俳優・石川瑠華。

“普通”とは何か、“自分らしさ”とは何か。戸惑いながらも自身の輪郭を探し求める葵の心の機微を、

ボーダーレスな空気感と繊細な演技で表現した。さらに、中島瑠菜、倉田萌衣、佐々木悠華、松宮倫、八条院蔵人など、

フレッシュな10代・20代のキャストが脳を固める。監督は、『スイート』で

第30回キネコ国際映画祭の国際審査員特別賞、PTA賞のほか、モントリオール日本映画祭の短編映画最優秀賞を受賞した安井祥二。

木村文乃主演の『紋の光』も現在公開中の、気鋭の映像作家だ。『つれづれ』『からっぽのシュークリーム』など、

自身の経験をもとに紡いだ作品では、常に登場人物の内面に寄り添い、観る者の心を静かに揺さぶってきた。

本作の主人公・葵が抱える悩みは、あなたの悩みと似ているかもしれないし、全く違うかもしれない。だが、“普通”とは何か、

“自分らしさ”とは何か——その問いは、きっと誰もが一度は自分自身に投げかけたことがあるはずだ。

本作では、言葉にならない想いを抱える主人公・葵を通して、全ての人の心に潜む“揺らぎ”を、

静かな光で照らし出すことを試みた。競い合い、ぶつかり、迷いながらも、ひたむきに前を向く葵たちの姿は、

誰もが胸の奥に秘めている“青春の記憶”を、静かに呼び覚ます。



Story

水泳部に所属する、高校1年生の葵(石川瑠華)。

理不尽な上級生からの嫌がらせに耐えながら、黙々と練習に打ち込む日々を送っている。

そんな葵には、誰にも言えない、もうひとつの悩みがあった。

同級生の水泳部員・日菜(中島瑠菜)に惹かれる気持ちを持て余していたのだ。

この胸の高鳴りは、友情なのか、それとも——？

ある日、日菜への嫌がらせに耐えかねた葵は、ついに上級生たちに歯向かってしまう。

その結果、葵たち1年生は、上級生と水泳でリレー勝負をすることに。

だが、実力不足の1年チームは、圧倒的に不利な状況。葵は同級生から批判され、日菜のことも困らせてしまった。

後悔する葵を、幼馴染で同じ水泳部の昌樹(八条院蔵人)が、そっと励ます。

その存在に救われる一方で、葵は昌樹に対して友情以上の感情が芽生え始めていることに気づき、戸惑いを隠せない。

日菜と昌樹の間で、揺れ動く想い。恋とは何か。友情とは何か。自分は何者なのか。

抑えていた感情は、昌樹のある行動をきっかけに、爆発する。傷ついた友人、仲間、そして自分自身。

だけど、逃げたくない。リレーの練習を重ねながら、葵は少しずつ自分の心と向き合い始める。

泳ぎ続けたその先で、葵が見つけた答えとは——。



2025年7月25日(金)より
全国順次公開



新宿

シネマクリテ
CINEMA QUALITE

JR新宿駅東南口GAP並び NOWAビルB1F
全席指定 / 入替制 Tel.03-3352-5645
<https://qualite.musashino-k.jp>